

運営委員挨拶

◇風に思う空の翼（その2）

関西学院大学 理学部

寺内 暉

昨年「光彩」に関学・理学部の紹介記事「風に思う空の翼」を書いた[1]。先週、編集幹事から運営委員としての原稿依頼を受けたが、それらしき働きもしていないので、「風に思う空の翼（その2）」として、やはり昨年「週刊朝日」に載った記事[2]を本文のみ転載させて頂くことにする。

－仁田イズム－

私が大学院時代に急逝されましたが、それまで直接指導をしてくださった富家先生は大阪大学から仁田先生について関西学院大学に来られた直弟子。私たち学生と違って研究レベルが高く、それだけに先生の偉大さもよくご理解されていたから、富家先生は仁田先生に対してはいつもピーンとした緊張感の中でお話されていました。ですが私たちはいわば孫弟子。とくに私の場合は先生と同じ分子科学を研究していましたが、先生は化学的側面から、私は物理的側面から研究していたということでもあり、ほんとうに自由に発言させていただきました。

今から考えると、ずいぶん失礼なことを申していたようです。しかし先生はお怒りになったことはありません。じゃあこういうふうの研究してみたらと、逆にご提案さえいただく。「卒業研究」の制度を見ても分かるように先生は自主的に学ぶという精神を大切にされていました。お嫌いだったのは、研究や実績を積まずに軽々しく話すこと。これは相手だけでなく、学問に対する冒涇だとお考えだったようです。

先生の科学者としての姿勢を一番強く感じたのは私たち1期生しかいない入学1年目のことです。先生の「一般化学」の学期末試験で誰かが通り一遍の解答をした。先生は理学部の全学生と先生方を教室ではなくチャペルに集め、科学とは何か、どう学ぶべきかを切々と訴えられました。後日自分のことだと悟った友達が先生に謝りに行きましたが、先生はそのことをご著書『流れの中に』で、＜そのいさぎよい態度に深く信頼をよせた＞と記されています。理学部の先生と学生は朝から夜遅くまで研究室で一緒ということもあり、つき合う時間が長いので先生と学生という以上の関係になる。最近仲人をするがありますが、手間をかけた子のときほどうれしく、本当に良かったなと思います。

それと同じでしょうか。私たち1期生の卒業式の日、先生は式辞を読まれる最中に感極まり、数分間嗚咽されました。そのお姿が今でも焼きついています。深い愛情の中で、先生が私たちにお教えくださったのは、社会や隣人に役立つために真理を探究しようという精神。まさしく関西学院大学の建学の精神である「Mastery for Service」をいかに科学の場で実践するかということ。その基本に置かれていたのが科学者としてよりも前に、人

間として誠実であるということ。チャペルに全員を集められたのもそのためでしょう。

お仕事の合間をぬって教え子の仲人をされたり、どんなに忙しくともコンパに顔だけは出されたりと、まるで心配症の親父さんのよう。先生の背中で学ばせていただいたことが数多くあります。関西学院大学の理学部が全国でも屈指と評されるとしたら、それはこのような先生のお人柄が大きく反映しているからだと思います。

今、私の研究室には富家先生のお遺影を飾らせていただいております。もしそれが仁田先生のお遺影だとしたら、先生はこうお叱りのことでしょうか。「君に学問の道に進むきっかけを作ったのは私ではなく富家君じゃないのかね」と。そう、それこそが関西学院大学理学部に脈々と息づく仁田イズムです。（談）

[1]光彩(1994)4号、31-32

[2]週刊朝日(1994)1/7・14合併号、201-203



大型放射光施設計画推進共同チームの動き 95-10

SPring-8 共同チーム

利用系 植木 龍夫

10月からSPring-8共同チームの体制がかなり大幅に変更されました。また、前回平成7年度の補正予算によって共同利用ビームラインの建設を含む施設の建設が前倒しになったことを報告しましたが、今月の第二次補正予算でいくつかの重要な施設計画が推進できることとなりました。9月から10月にかけて利用系グループの内で挿入光源および基幹チャンネルを担当する研究者を中心に十数名が東海および和光から播磨サイトに移動しました。

1. SPring-8 共同チームの体制

平成7年9月14日のSPring-8運営会議（原研と理研の副理事長の下に組織されている会議）において共同チームの体制整備がなされた。旧体制はリーダーの下に4グループが編成されていたが、事務に関連する部分が整理されて研究開発グループと企画・管理グループをそれぞれ大野氏および坂田氏が率いることとなった（図1参照）。研究開発グループの下に加速器系グループと利用系グループがある。SPring-8利用者と直接接触することが多い利用系グループは植木と瀬崎が担当し、ビームライン建設グループ（北村、石川担当）と利用推進グループ（植木、瀬崎担当）がビームライン建設などの推進に当たることになった。JASRI（高輝度光科学研究センター）の対応する部門も図に示した。10月1日現在の構成員は、共同チームが200名（原研83名、理研117名）およびJASRIが71名で、合計271